

# 新型コロナアンケート結果“私たちの声を聞いて”

=新型コロナで向き合う医師・看護師・介護職員の声=

2021年3月11日

京都医療労働組合連合会

## I 概要

私たち、京都医療労働組合連合会（33組合・5,608人、執行委員長：勝野由起恵）は、10月から2月にかけて、新型コロナ禍における一時金や働き方の変化、マスクやガウンなど衛生材料（PPE）の状況やPCR検査の実施などに関するアンケート「私たちの声を聞いて」を取り組みました。2,276人（12組合）の組合員から集約しました。結果は、以下の通りです。

### 1 医療・介護労働者の増員は早急な課題

新型コロナ禍で、人員体制や業務、労働条件の変更が「あった」と回答した人が、約4分の1（24.9%）の人が回答しています。新型コロナ感染症に向き合うために、どの病院も感染対策などの業務量が増えています。新型コロナ受け入れ病棟や発熱外来を創設した病院では、応援体制で業務を維持し、送り出した職場では、さらに人手不足となっています。また、他科の入院患者の対応、電話問い合わせ・面会禁止の対応、患者検温など慣れない業務が増えています。慢性的な人手不足の下で、いつ自分が罹患するかもしれないとの不安と緊張の連続で職場を離れる仲間がいます。一方で勤務場所や職種によっては、業務を縮小している部署もあります。医療・介護労働者の人員増など職場環境の改善をすすめる施策を行政は講じるべきです。

### 2 医療・介護への財政的支援は必然的

こうした奮闘の一方で、生活を支える一時金は引き下げられています。（京都医労連加盟組織で半数が2020年年末一時金は昨年実績引下げとなっています。参考：日本医労連は43%が昨年実績引下げ）こうした理不尽な引き下げに対し、「不安」「心配」や「不満」「怒り」の声が寄せられています。行政に対して、「賃金補償」（62人）「医療機関・介護施設への補助金」を求めるなど医療・介護への財政的な支援は必要です。

### 3 マスクや手袋・ガウンが足りない

いまだに、マスクや手袋・ガウンが不足しています。とりわけ、マスクは1週間に1枚の交換（36.2%）となっている病院もあります。不潔であっても、制限され、交換できない実態が明らかになっています。これら衛生材料の安定的な供給を確約させることと、財政的な補償を行政が講じるべきです。

#### 4 定期的な PCR 検査を全職員に

症状の有無や接触の程度に関わらず、感染リスクの高い医療・介護労働者に対して PCR 検査がほとんど行われていません (64.9%)。行政に対しての、定期的な PCR 検査の実施を最も多くの人 (96 人) が求めています。感染リスクのある医療・介護労働者への PCR 検査は必要です。

#### 5 「GoTo」は見直しを、無為・無策な行政の対応に「怒り」

感染者を拡げる「GoTo 見直し」(35 人) を求め、「行政の無為無策への不満」(32 人) など怒りとともに、医療・介護への財政的な支援、また生活困難者への支援を行うようにとの声が寄せられています。

#### 6 コロナに関する誹謗中傷など

コロナに関する誹謗中傷など差別的対応・ハラスメントについては、「あった」と 6.9%は回答しています。新型コロナウイルスに対する恐怖心や誤解や偏見をなくすために、正確な情報の発信が求められます。

## II 調査結果

1 コロナ禍で、人員体制や業務内容などの変更は、約4分の1が「あった」と回答。

「人員体制や業務内容の労働条件の変更などありましたか？」の問いには、566人(24.9%)が「あった」と回答しています。

1. 人員体制や業務内容の労働条件の変更などありましたか？		回答数	%
あった		566	24.9
なかった		1133	49.8
わからない		363	15.9
NA		214	9.4
合計		2276	

「あった」と回答した主な内容は以下の通りです。(自由記載・複数回答)

「業務拡大」が最も多く、195人が記載しています。その内訳は、感染対策103人(52.3%)、発熱外来(24人)やコロナ患者の受け入れ病棟(17人)の対応、面会制限・禁止の対応(17人)、他科の患者対応(14人)、PCR検査(11人)、患者検温(11人)などが続きます。

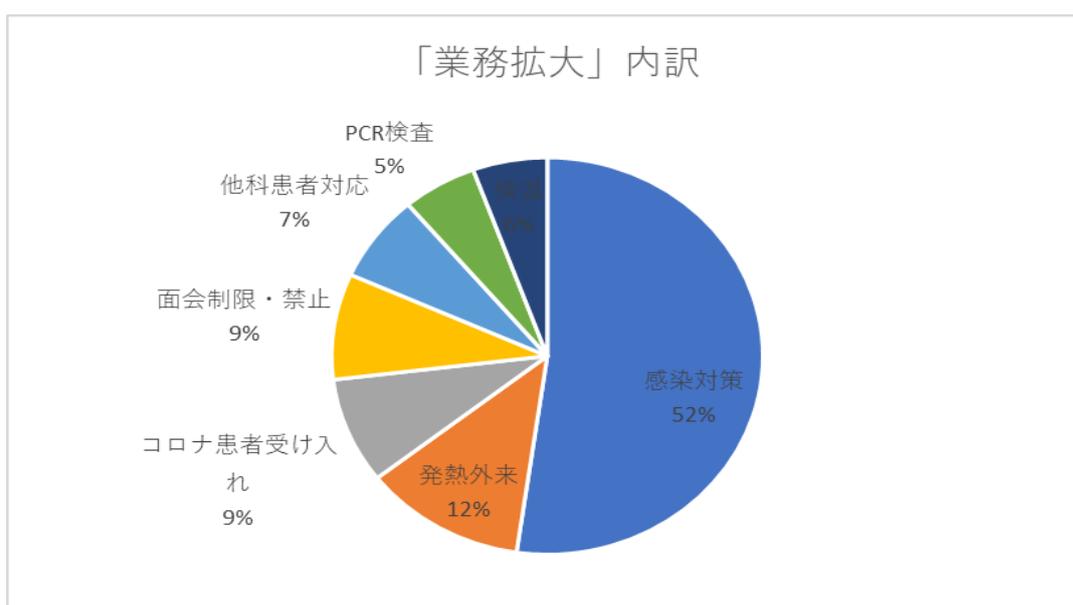
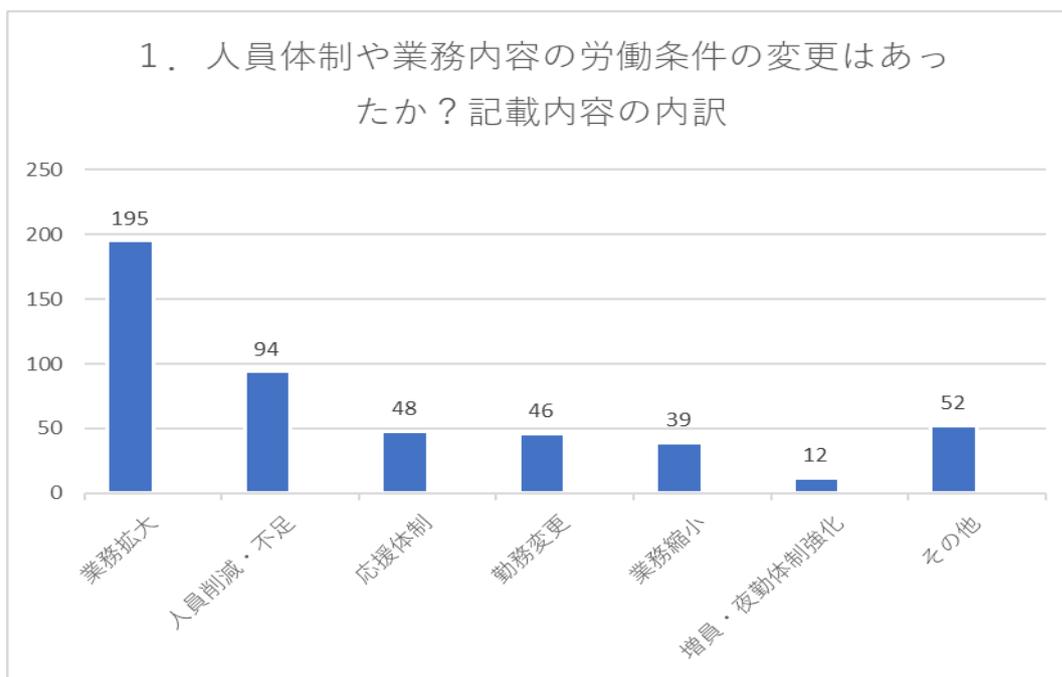
「業務拡大」に続いては、「人員不足・削減」が94人、「応援体制による業務変更」が48人、「勤務変更」が46人、「業務縮小」が39人、増員・夜勤体制強化が12人となります。

「病棟のスタッフからコロナ陽性が出た時は、その病棟スタッフが休みとなったため、自病棟からも応援に行くことになった。よって、自病棟の人員が不足となった。」「発熱外来が設置され、外来の人員が足りなくなれば病棟から応援」など少ない人数の下で、コロナ受け入れ病棟や発熱外来への「応援体制による業務変更」があると回答しています。コロナ受け入れ病棟(夜勤体制を強化も含)や発熱外来に人員が集中し、ほかの病棟で「人員不足・削減」が深刻になっています。また、職員の退職や職員のコロナ陽性者発生による出勤停止に対して、職員補充がされない状況も明らかになりました。そもそも慢性的な人手不足の下で、「新型コロナ感染対策」と言う新たな業務が発生したので、このような状況が生み出されるのは、必然的です。早急に慢性的な人手不足の改善策を講じるべきです。

一方で、外来、健診業務やベッドサイドのリハビリ、栄養指導・服薬指導、デイケアなどの「業務縮小」がありました。院内クラスターの発生した病院では、病棟閉鎖や外部委託の停止などが起こりました。また中には、「外来受診制限に伴い、外来看護師パート職員が勤務できない状態になった。」「給料が1/4になった。」など非常勤職員への不利益な対応が寄せられ、雇用調整助成金や休業手当の申請の働きかけが必要です。労働組合のない職場では、横行している危惧があります。

その他、「コロナ患者疑いで、1人のスタッフが付きっきりとなり、通常業務から人員が削減された。」「コロナ感染者と濃厚接触するリスクが高く、自分自身が感染しないか不安。」「休日出勤が増えた。」「コロナ対応が嫌なら、異動希望を出すように言われ、数名異動や退

職しましたが、十分な補充はなし。手術や化学療法の件数が減り、知識や技術の向上に不安がある。」「利用者家族の施設内の立ち入り禁止になったため、今まで家族がしていた洗濯物を玄関まで運んだりしている。」「病棟に何度も患者の体調はどうか？との電話が入り、電話対応が多くなった。」「退職者が増え、コロナで業務が増えており、体力的・精神的負担が大きい。」「消毒など、感染対策の業務が増えたが、人員は補強されず、時間外が著しく増加した。」「今後もコロナ患者が増えていく中で、通常の患者と一緒に看護できるか不安。」「院内クラスターが発生し、外部委託していた夕方から夜間の警備・受付業務が停止し、勤務が増えた。」



## 2 一時金に対する切実な「不安」や「心配」の声

一時金が支給されるかどうかわからない中で、「不安（196人）」や「心配（38人）」の声が寄せられています。コロナ禍で奮闘している「労働力の対価」不十分で、働くモチベーションが下がったまま働き続けています。経営者はコロナの「附」を労働者に押し付けるべきではありません。行政の財政的な支援は急務です。以下は、寄せられた主な声は以下の通りです。

「職員は減る一方で、コロナ禍の感染対策など仕事は増えるが、一時金は上がらない。」  
「コロナ禍で病院経営は厳しくなっているので、今後どうなるか不安。」  
「一時金が下がったことで、働く人のモチベーションが下がってしまい、離職が進むのではないか。」  
「今年は何とか一時金出しましたが、来年はどうなるのか不安に思います。」  
「コロナ隔離対応し、ストレスが大きいのになぜ。」  
「これだけしんどい思いをしているのに、支給がなかったたり、減額されるのはおかしい。」  
「コロナと向き合い感染リスクが高い中で働いているのに、一時金が下げられるのは納得がいかない。そのあたりを政府がしっかり取り組み、守っていかないと医療は成り立たない。」  
「感染予防を厳重にし、外出・外食制限をする生活しているのに、にボーナスを減らすって…。感染させないための努力は評価されていない。」  
「ローンや生活費を思うと、一時金の引き下げは苦しい。」  
「患者数が減り、赤字になったことは職員には関係ない。ボーナスカットはおかしい。」  
「こんなに仕事が大変なのに!! ボーナスカットってどういうことですか!!」  
「子どもの学費支払いに支障があります。」

## 3 コロナに関する誹謗・中傷

『『コロナ』に関わった職員に対して差別的対応、ハラスメントはありましたか?』の問いには、130人（5.7%）が「あった」と回答しています。

3. 「コロナ」に関わった職員に対して差別的対応、ハラスメントはありましたか?			
		回答数	%
あった		130	5.7
なかった		1172	51.5
わからない		710	31.2
NA		264	11.6
合計		2276	

「あった」と回答した主な内容は「グリーンゾーンであっても当病棟のフロアに入りたくない言動が聞かれる。コロナ病棟ナースは専用のウェアを着ており、汚染エリアに入らない日、他病棟に行くとあまり近づきたくない雰囲気が感じられる時がある。」  
「自分の働いている病院でコロナが発生した際に、外部の住民から差別的な発言をされる。」  
「職場内で『コロナが出たんやろ。近づかないで。』と言われた。」  
「保育園に子どもを預けられなくなるので『病院で働いている』と言えない。」  
「結婚式延期」  
「一般の方から、『医療従事者なのでコロ

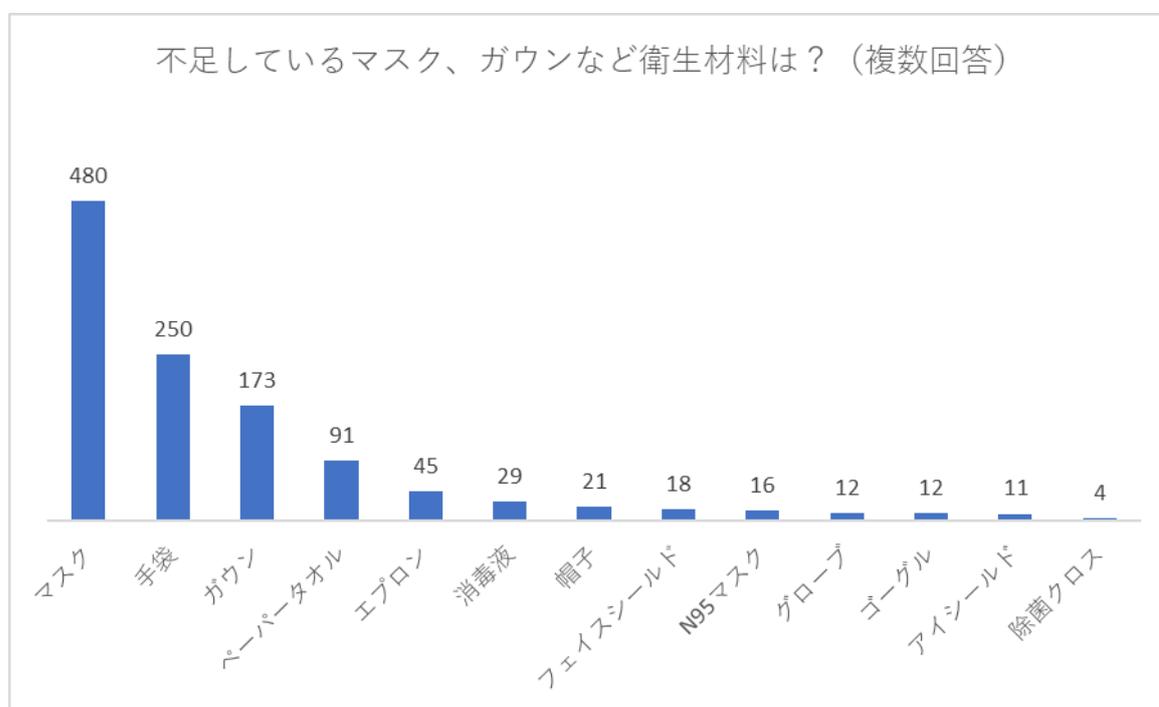
ナをうつされるかも』と言われた。」

#### 4 足りないマスクや手袋、ガウンなどの衛生材料

「マスク、ガウンなど衛生材料は充足していますか？」の問いには、1,077 人（47.3%）が「不足している」と回答しています。

4. マスク、ガウンなど衛生材料は充足していますか？	回答数	%
充足している	496	21.8
不足している	1077	47.3
わからない	526	23.1
NA	177	7.8
合計	2276	

主に不足しているものは、「マスク」で 480 人が回答。使用頻度は、1 週間に 1 枚(36.2%)、1 日に 1 枚 (36.2%) となっています。以前に比べると充足しつつありますが、「マスクは 1 日 1 枚のままです。これまでは、AM・PM で交換できていたし、くしゃみなどで汚れた時も構わず交換していましたが、現在はできていないです。」「家から持参する」など改善はされていません。続いて、「手袋」250 人、「ガウン」173 人、「ペーパータオル」91 人と続いています。「ガウン」はごみ袋で手作りを使っている、「ペーパータオル」は 1 人一回 2 枚の制限で不衛生になっていると不足しているのが明らかになりました。



#### 5 職員にPCR検査は、ほとんど行われていない

「症状の有無や接触の程度に関わらず、職員に対して PCR 検査は行われていますか？」の問いには、1,478 人（64.9%）が「行われていない」と回答しています。

5. 症状の有無や接触の程度に関わらず、職員に対してPCR検査は行われていますか？			
		回答数	%
行われている		245	10.8
行われていない		1478	64.9
わからない		374	16.4
NA		179	7.9
合計		2276	

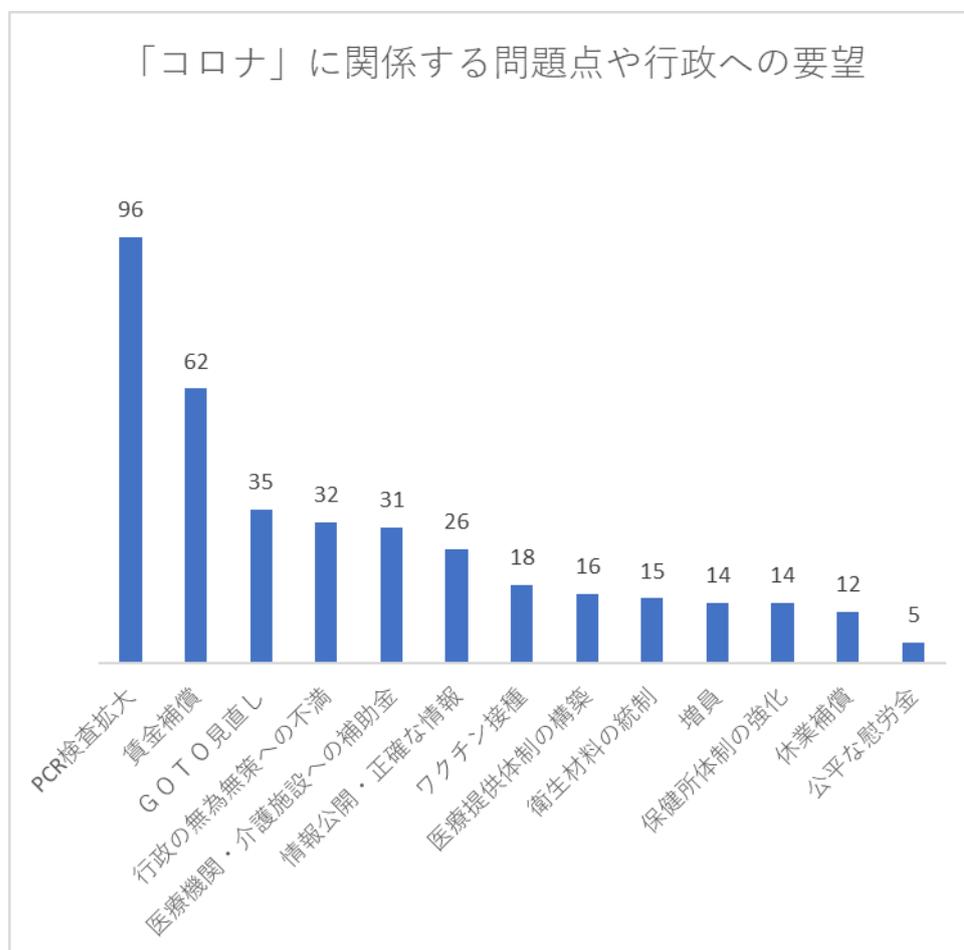
## 6 行政に求めるのは、医療・介護労働者への賃金補償と定期的なPCR検査の実施

「コロナ」に関係する問題点や行政への要望で最も多かったのは、「PCR 検査は必ずしてほしいです（全国すべてに）無症状の人への検査を拡げるべき（スクリーニング的に）。濃厚接触者・症状のある人のみではなく、定期的に。」などPCR検査の定期的な実施（96 人）です。続いて「医療・介護労働者への賃金補償」（62 人）です。「給料・一時金含め補償をしてほしい。離職が進みます。」など一時金の削減の補填や「コロナの医療従事者慰労金をもう一度出してほしい。」などの慰労金の継続などの声が挙げられます。

「GoTo 見直し」（35 人）、「行政の無為無策への不満」（32 人）、「医療機関・介護施設への補助金」（31 人）、「情報公開・正確な情報」（26 人）が続きます。

「『濃厚接触者』の定義が甘いように感じます。マスクをしていればその扱いにならない、というのは間違い。しっかり検査してほしい。」「普段から、医療従事者の数をもう少し増やしておく必要がある。」「GoTo キャンペーンよりもコロナ受け入れ病院に対して補助金と人員確保による手厚いサポートをする必要があるのではないかと思う。」「自身がコロナに感染したり、周囲の人が感染し濃厚接触者となってしまった時に、職場からの休業要請が出た時、個人の有給で処理されるのは納得できない。」「なぜ、コロナ患者の対応しているかどうかで慰労金の金額が変わるのはどうなのか？リスクは同様にあると思うが。」「感染拡大、コロナ以外の治療が受けられないことがこわいです。」「コロナ受け入れ病院の話はテレビなどメディアに取り上げられているが、受け入れ病院だけでなく、他の病院・施設も手間も不安もある。」「京都は検査少ないと前から指摘あります。ちゃんと検査して治療できる、安心できる町づくりしてほしい。」「経済を回すことは優先と言われているが医療が崩壊すれば経済だけでなく今後の医療費の増加にもつながることを考えて欲しい。（コロナのためにがん健診や他の疾病の診療が滞っている）」「オリンピックは中止するべき。」「設備の整っていない病院でもコロナを対応していかなければならない状況であれば、国がその設備を充足してもらわなければ、私たち医療者はどう守っていけばいいのか分かりません。」「医療現場ではずっとずっと自粛生活が続いているのに、経済を回すためにGoTo 事業を始め、感染の増加をまねき、医療のひっ迫を引きおこすという悪循環になっていると思う。医療に関

ならず、全ての人が苦しい生活を強いられている。オリンピックを開催することを強行するよりも、もっとすべきことがあるのではないのでしょうか。国民の命を最優先に考えていただきたいです。」



＝切実な医療労働者の声＝

私たちは日々の暮らしの中で「いかに自らの感染を防ぐか」と考えています。会食や旅行制限され、自宅⇔職場でしか生活していません。世の中はGo Toでさわぐ中でどうあっても自分には関係のない話ばかりテレビで流されているのは本当につらいです。介護の方も同じでしょう。一部の人にしかお得でなれないような政策は税の使い方としていかがなものかと感じています。あと単に私自身の精神が持たないです。医療に関わる以上、旅行は行かないことはしょうがないと思っていますが、感染が広がれば、私たちの仕事は今以上に辛くなります。医療現場の重い負担と精神的な苦勞をもっと考えてもらったらなあと思いつつ、かといって外出を抑えるのも変な話だと。今の日本は現場に「大変だな」と片づけて、あとは見ぬふりに見えています。

以 上